要求されるディペンダビリティを実現する再構成可能デバイス向け設計ツール

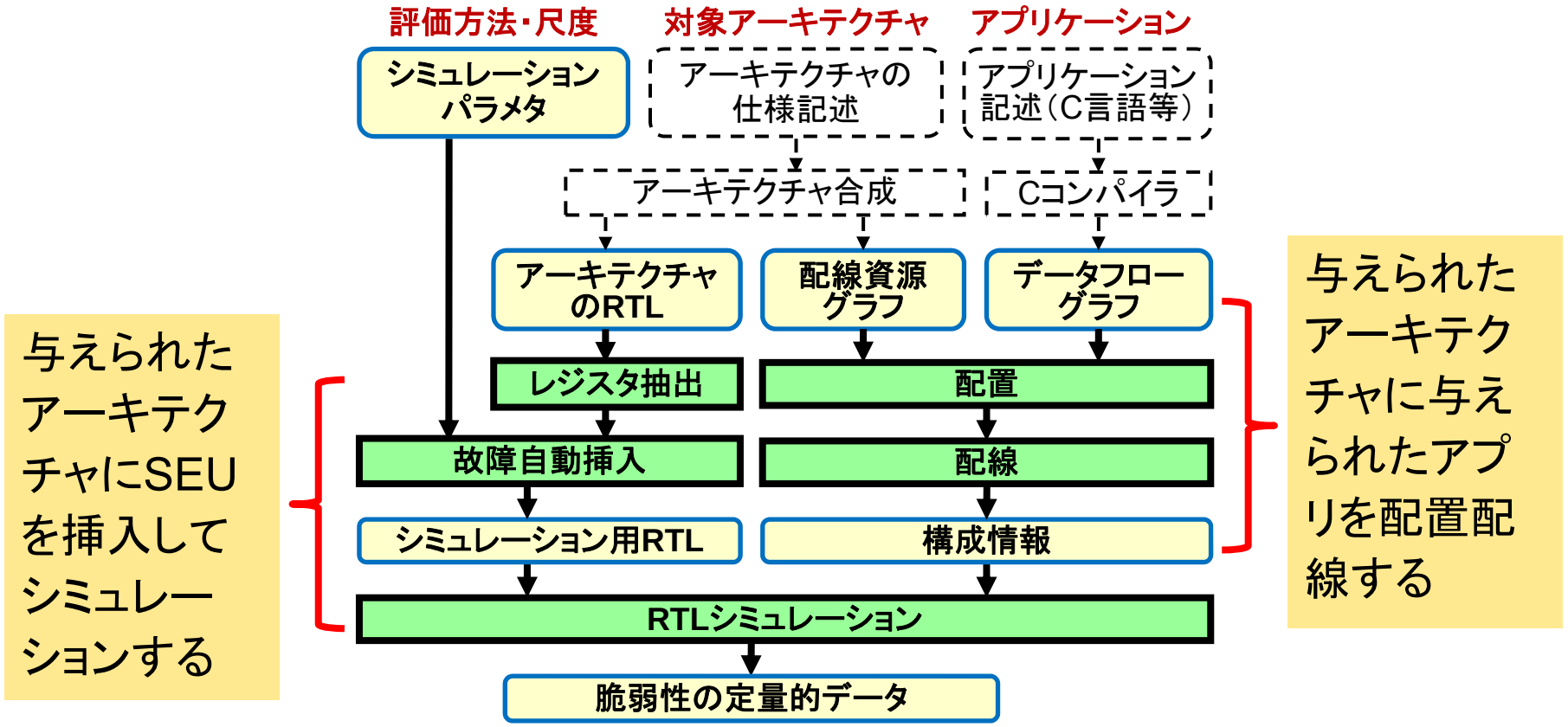
京都大学
越智裕之

背景・目的

- 再構成可能アーキテクチャの普及
  - NREコスト低減、製造後の回路修正可能
  - 製造容易な規則的構造、…
- プロセス微細化に伴うソフトエラーの脅威
  - 特に再構成デバイスの構成情報SRAMは脆弱

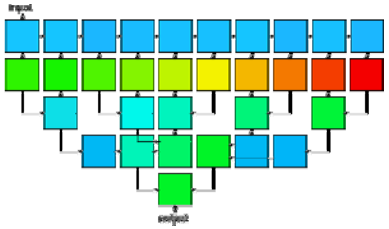
- 粗粒度再構成可能アーキテクチャに注目
  - 構成情報SRAMが小さくSEU耐性高い
  - メディア処理で応用が広がりつつある
  - **高信頼設計向けの専用ツールが必要**

ツールの概要

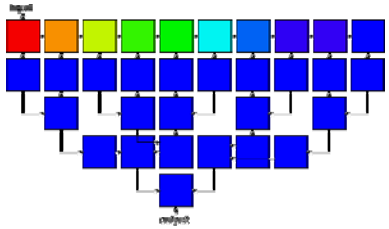

評価方法・尺度
対象アーキテクチャ
アプリケーション
シミュレーション パラメタ
アーキテクチャの 仕様記述
アプリケーション 記述（C言語等）
アーキテクチャ合成
Cコンパイラ
アーキテクチャ のRTL
配線資源 グラフ
データフロー グラフ
レジスタ抽出
配置
故障自動挿入
配線
シミュレーション用RTL
構成情報
RTLシミュレーション
脆弱性の定量的データ
与えられたアーキテクチャにSEUを挿入してシミュレーションする
与えられたアーキテクチャに与えられたアプリを配置配線する

応用例(1)脆弱性の分布

- 粗粒度アレイ上にFIRフィルタをマッピングし、各セルにSEUが発生した時に出力誤りを起こす頻度を評価
- セルにより脆弱性は大きく異なる
- **赤は特に出力にエラーを起こしやすいセル**なので、これらを重点的に対策するのが有効

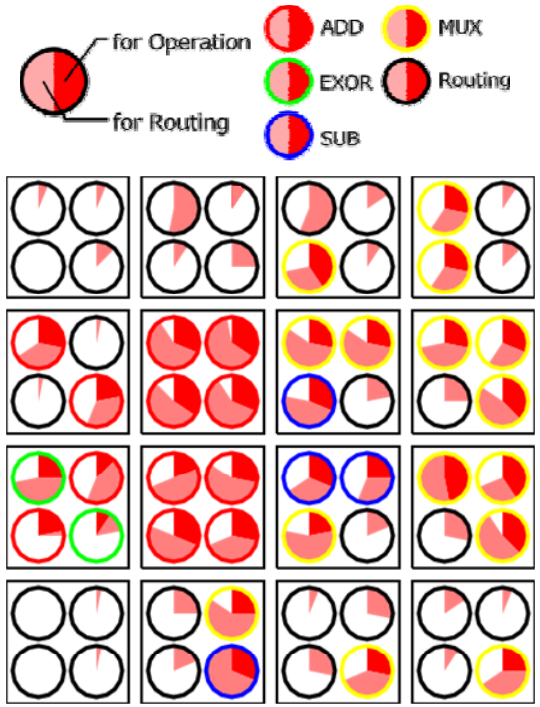


構成情報レジスタ



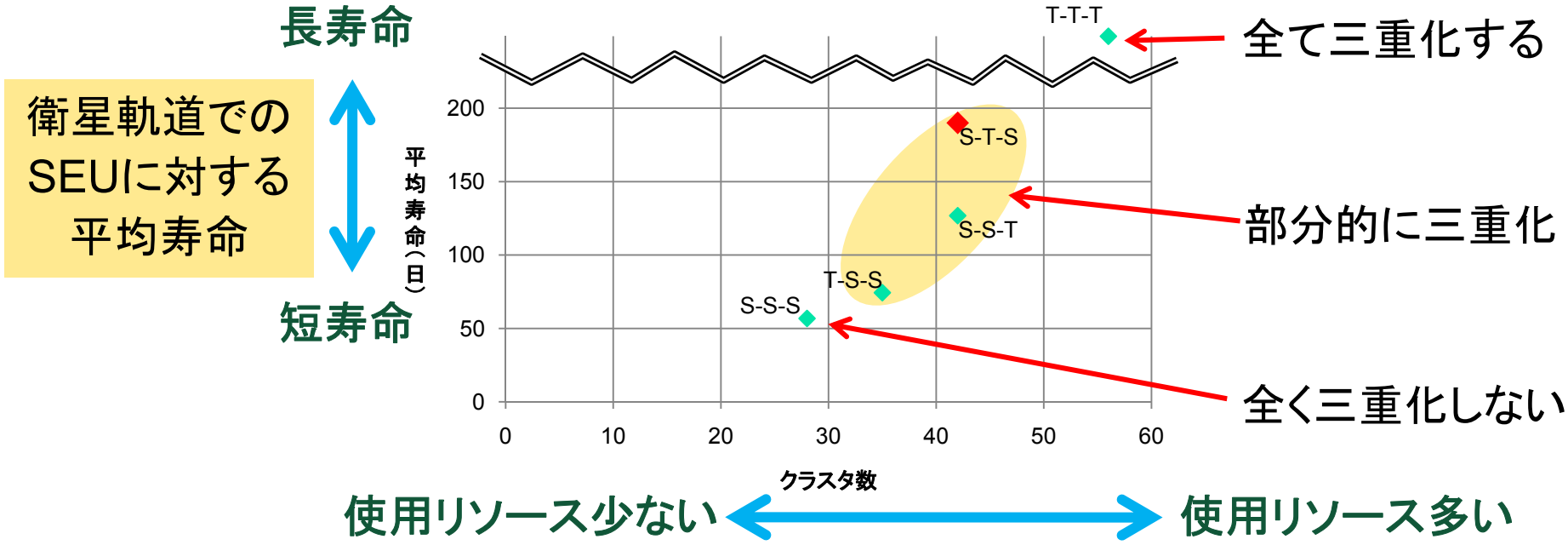
データパスレジスタ

- 粗粒度アレイ上にビタビデコーダをマッピングし、出力誤りを起こす構成情報量を、演算器関係と配線資源関係に分けて評価
- 中段のセルで配線資源が支配的



応用例(2)部分的多重化と信頼性の関係

- ビタビデコーダを阪大アーキテクチャにマッピングし、SEUに対する脆弱性を評価
  - 部分的多重化によりコストとディペンダビリティのトレードオフが可能であることを示す



まとめ

- 粗粒度再構成可能アーキのSEU耐性を評価するシミュレーション環境を構築
- 応用例
  - 脆弱箇所の可視化→部分的三重化の効果的導入
  - 使用リソースと信頼性のトレードオフ検討
  - アーキテクチャの改良に向けた信頼性評価
- 今後の予定
  - 信頼性を考慮したマッピングの最適化
    - 信頼性を考慮した配置配線
    - 信頼性を考慮した上流合成系